

## 府中市のウィーン市との友好都市提携について（検討協議会の経緯等）

## ■友好都市検討協議会について

## (1) きっかけ

社会情勢や生活環境の変化に伴い、都市交流の新たな展開への期待、国際化の推進による国際的視野を行政が持つことの必要性など、時代の要請に即した対応が求められている。その中で、府中においても新たな都市との交流の気運が高まっており、これを具現化するための対策をたてる必要がある。（市長から協議会への諮問書より）

## (2) 検討協議会

16名（市民団体推薦者、専門家等）

## (3) 検討期間

昭和 62 年（1987 年）11 月～平成元年（1989 年）3 月（17 ヶ月）

全 17 回開催（※ほぼ月 1 回のペースで会議を開催）

- ・ 第 1 回～ 第 12 回：国内の友好都市について（※1 年程度）
- ・ 第 13 回～第 17 回：海外の友好都市について（※半年程度）

## (4) 検討内容・結果

選定基準（①歴史、②芸術文化、③近代的な都市づくり、④共通点、⑤交流実績）に基づいて候補地を選定し、市長に答申をした。

## ①国内の友好都市について検討〔会議 12 回、検討期間：1 年程度〕

〔検討結果〕既に 1 自治体と友好都市を提携していたが、新たにもう一つの自治体友好都市を結ぼうとして候補地を選定。しかし、相手側の都合により締結には至らなかった。

## ②海外の友好都市について検討〔会議 5 回、検討期間：半年程度〕

〔検討結果〕9 自治体を候補地として選定し、市長に答申（平成元年 3 月）。

## ■答申後の経緯

## (1) ウィーンとのきっかけ・つながり

- ①平成元年 5 月 都の交流事業で来日したウィーン在住の日本人より「友好親善がしたい」旨の話をもらう。
- ②日欧修好 120 周年で府中市のジュニアアンサンブルがウィーンへ行く。
- ③文化ホールの名称が「ウィーンホール」となる。（平成 3 年（1991 年）開館）

## (2) ウィーンとの提携への流れ

- ・ 検討委員会の答申を踏まえ、候補地を 3 都市に絞る。
- ・ 答申で示された選定基準に最も合致すること、また上記①から③のとおりつながりがあることからウィーンを第 1 候補地とする。
- ・ ウィーン市としては友好都市盟約の締結は行っていないことから、ウィーン市 23 区の中からヘルナルス区の立候補を受け提携の交渉を進める。
- ・ 平成 4 年に、最終意思確認として助役及び担当部長、課長がウィーンを訪問。  
→平成 4 年（1992 年）8 月、友好都市締結

## ■現在の交流事業

### (1) ホームステイ相互派遣

#### ① 府中市からヘルナルス区へのホームステイ派遣

平成6年度から毎年実施。実施にあたっては、委託先である NPO 団体との協働により取り組んでいる。

対象：当該年度に 16 歳から 18 歳である青少年

期間：例年 8 月中旬から下旬 10 泊 12 日

人数：定員 6 名

内容：ホームステイ、区長表敬訪問、区内・市内見学 ほか

#### ② ヘルナルス区から府中市へのホームステイ派遣

平成 20 年度、25 年度に実施。NPO 団体、過去の府中市からの派遣生及びその家族の協力により実施。

対象：当該年度に 14 歳から 19 歳である青少年

期間：7 月下旬から 8 月上旬 9 泊 11 日

人数：定員 6 名

内容：ホームステイ、市長表敬訪問、市内見学 ほか

### (2) 訪問団による相互訪問

#### ① 友好都市締結周年記念の議員訪問

平成 9 年度の 5 周年から 5 年おきに、府中市議会議員団がヘルナルス区を訪問している。

#### ② 府中市からの市民友好訪問

平成 6 年度：ヘルナルス区を訪問し府中囃子の演奏

平成 24 年度：ヘルナルス区での提携 20 周年記念式典に参加し、太鼓を演奏

ほか

#### ③ ヘルナルス区からの市民友好訪問

平成 8 年度：区長をはじめとする友好訪問団が来市

平成 14 年度：提携 10 周年式典への参加のため来市。市民との友好富士登山を実施。

平成 26 年度：府中市制 60 周年記念式典への参加のため来市。市民を対象としたウィンナーワルツ講習会を開催。

ほか

### (3) その他の交流

市立の小学校 1 校、中学校 1 校、図書館、生涯学習センターがヘルナルス区の対象施設と施設間友好協定をそれぞれ締結している。